令和８年１１月１１日

戦国期の奥羽、東日本社会を流通の視点から捉えなおす
～『戦国期の流通と権力・民衆』の刊行～

福島大学行政政策学類の阿部浩一教授は、これまで、日本の中世社会、とりわけ戦国期について、権力と民衆の双方の視座から地域社会を考える研究に取り組んできました。戦国期は中世社会から近世社会への移行のみならず、日本史上の一大転換期として、その歴史的意義が追究されてきました。その重要な課題の一つに民衆の台頭があげられますが、比較的史料の豊かな畿内近国・西国に比べ、東日本は限られた史料から歴史像を解明する視角や方法などに工夫が必要となっています。

そこで、今までの研究をふまえ、前著『戦国期の徳政と地域社会』（吉川弘文館、2001 年）に続き、戦国期の関東・東海・東北をフィールドとして、流通という新たな視角から民衆社会の成熟と権力形成の進展のあり方を解明してきた既発表の成果を、このたび新たな一書にまとめた、『戦国期の流通と権力・民衆』を刊行いたしました。

◎本研究のポイント

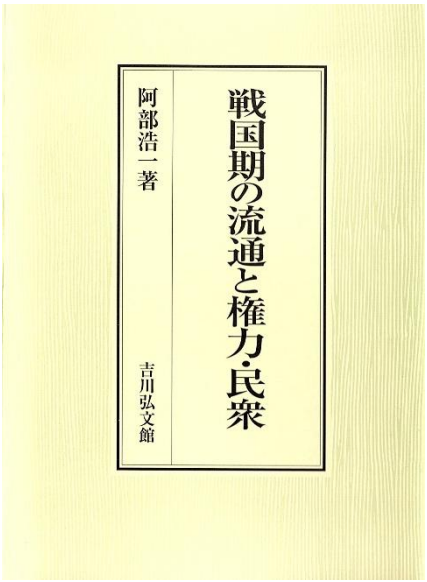
本書では、各地に点在する流通関連の史料に着目し、そこから民衆社会の台頭する姿を浮き彫りにし、権力の対応のあり方を通して、地域社会の変容を検証することを課題としました。また、福島県にある大学の歴史学教員として、戦国期の奥羽社会における権力形成のあり方や流通の実像を解明した成果もまとめています。

◎今回の成果

本書は 3 部構成となっています。第 1 部では、流通を通して富を蓄積しながら、村や町の指導者として自立を促し、戦国大名にもその実力を認めさせてきた人々を「有徳人（うとくにん）」と定義し、その歴史的意義を論じました。

第 2 部では自然環境・災害と中世人の関わりをテーマに、自然災害が地域の流通構造に与えた影響により地域の自立が進展していく過程などを明らかにしました。

第 3 部は戦国期の南奥羽社会を舞台に、分裂から統合への過程において、戦争と「無事」（和平）を基調とする政治秩序のあり方と、主導的役割をはたした伊達政宗の父輝宗の施策の意義を再評価し、流通の全体像と商人たちの活躍の姿も浮き彫りにしました。



◎出版情報

出版社：株式会社吉川弘文館
刊行日：2026 年 11 月 1 日
価　格：10,000 円（税別）

※本書の刊行にあたっては、福島大学基金研究推進事業の学術出版助成（助成番号 26FC004）を受けました。

（お問い合わせ先）
行政政策学類・教授　阿部　浩一
電　話：024-548-8318
メール：abe@ads.fukushima-u.ac.jp

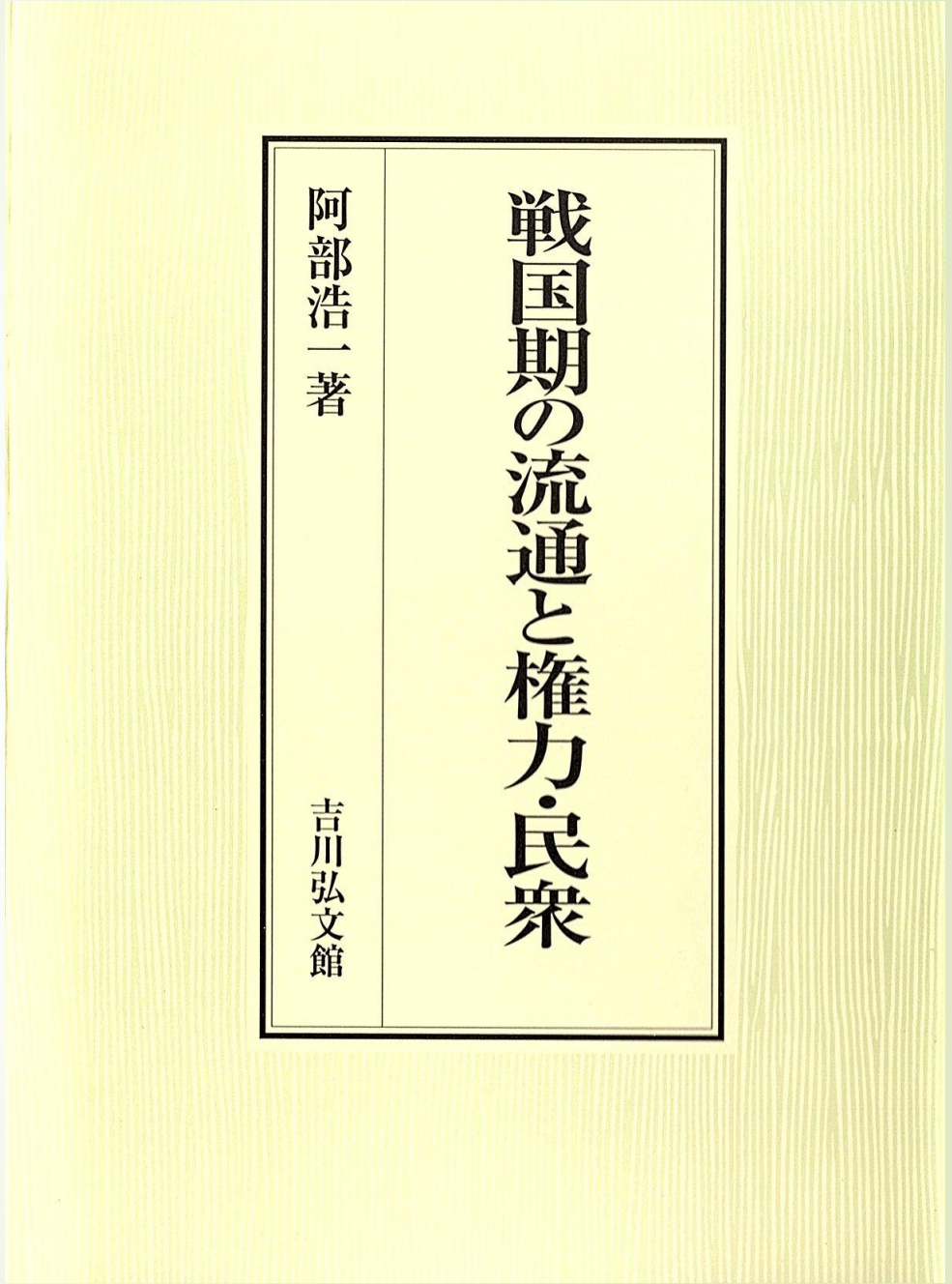
戦国期の奥羽、東日本社会を流通の視点から捉えなおす

―『戦国期の流通と権力・民衆』の刊行―

福島大学行政政策学類教授
阿部　浩一

研究の背景とポイント

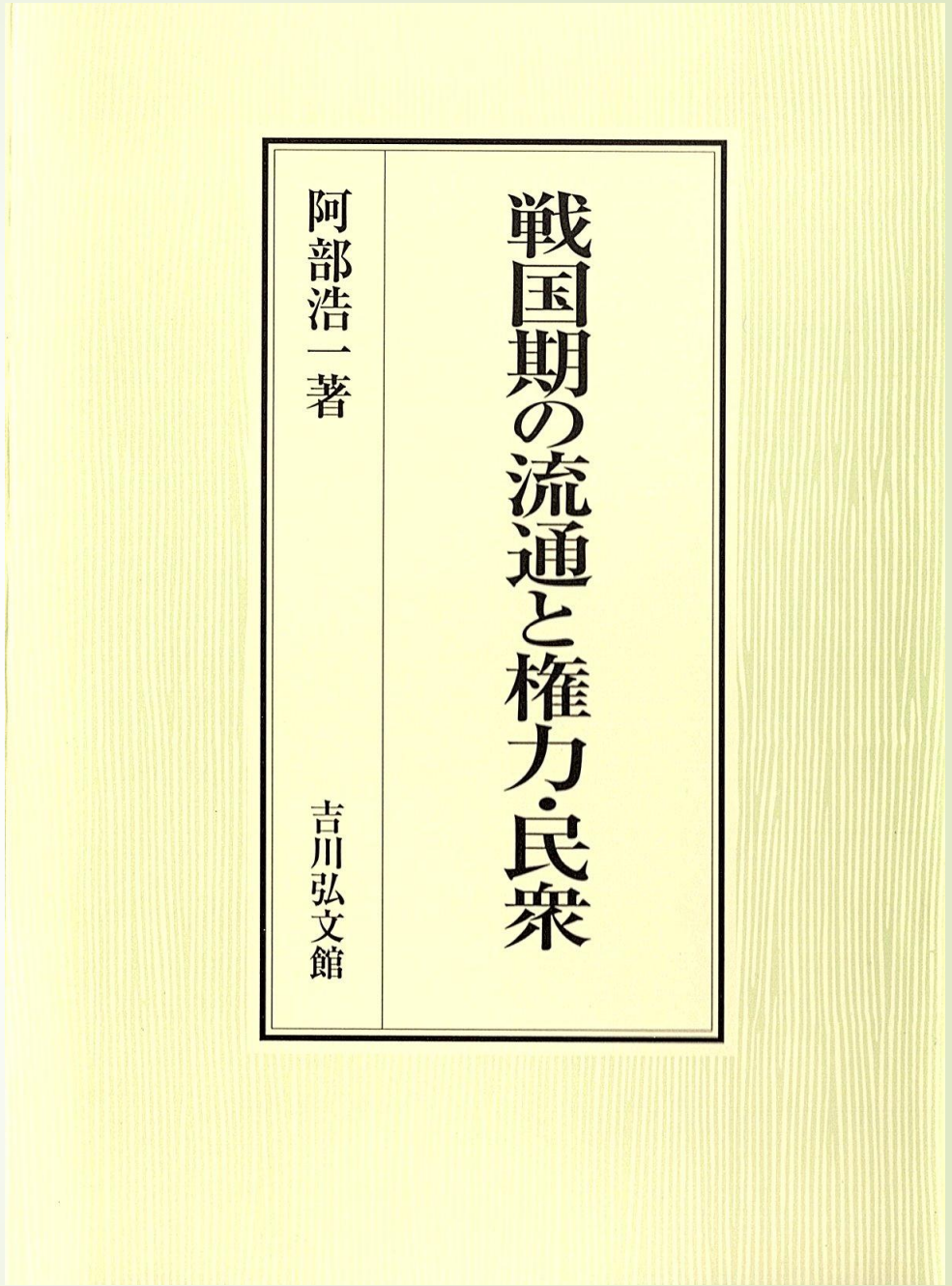
- 日本史上の一大転換期としての戦国期
- 戦国大名研究に比して史料の少ない民衆世界（特に東国社会）
- 流通関係の史料から民衆世界の実像を再構築する
- 戦国大名を地域の視座から捉えなおす



本書の構成

- 研究史整理の上で
  ①流通論と地域社会
  ②自然環境・災害と流通
  　そして開発
  ③南奥の政治秩序と流通
  　構造

の3部構成からなる

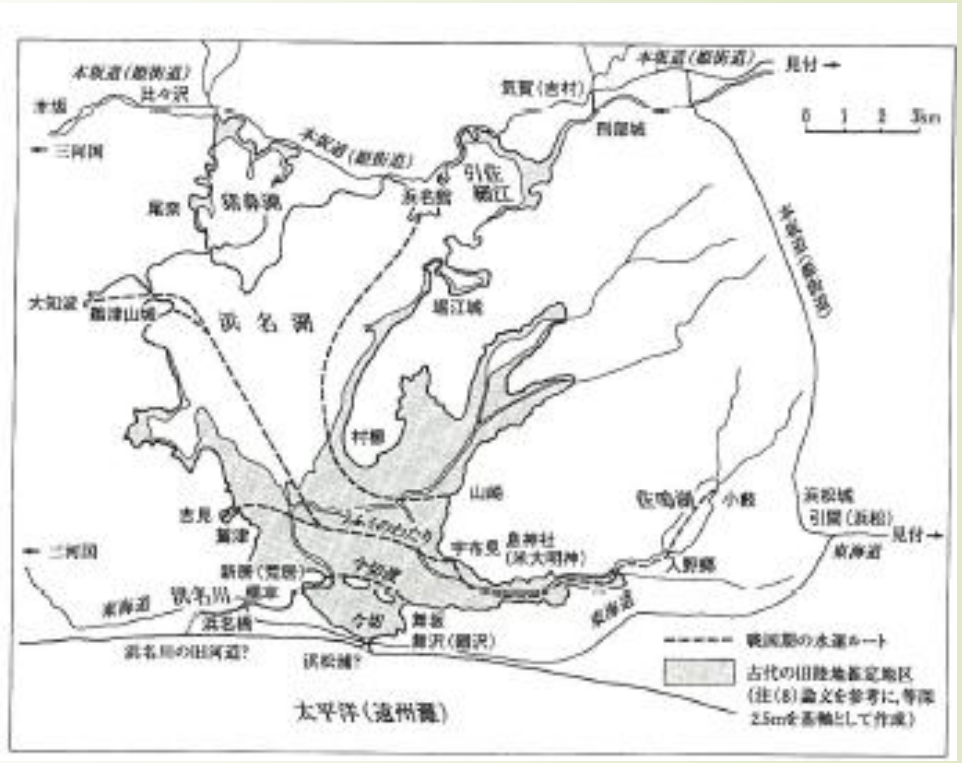


第１部　戦国期の有徳人層と流通・地域社会

- 流通により富を集積する人々を「有徳人」と概念化する
- 有徳人層を通して、村・町の自立と戦国大名との結びつきのあり方を解明する
- 塩の生産・流通・確保をめぐる戦国大名の施策と民衆との関わりを浮き彫りにする

第２部　戦国期の流通と自然環境・災害・戦争

- 災害による浜名湖の地形変化にともない、交通体系が変容し、新たな流通拠点で自治が生まれる



- 城普請や用水整備などの開発から、戦国大名や民衆の自然との向き合い方を見通す

戸谷穂高『東国の政治秩序と豊臣政権』より転載



第３部　戦国期南奥の権力と流通・地域社会

- 統一の進まなかった戦国期南奥社会を、戦争の一方で「無事」（＝和平）を希求する社会としてそのあり方を追究し、天正期を「南奥惣無事体制」と評価する
- 伊達政宗の父輝宗のはたした主導的役割を再評価する
- 戦国期南奥羽の流通と交通網、商人の活躍の全体像を描きだす

ご清聴ありがとうございました

- 本書の刊行にあたっては、福島大学基金研究推進事業の学術出版助成（助成番号26FC004）を受けました
- ㈱吉川弘文館より刊行
- 2026年11月1日初版
- 定価10,000円＋税

